

県民提案型協働創出事業 中間報告書

令和8年3月31日現在

実施団体名	障害者就労支援事業施設NPOあきたアグリネット		
取組事業名	汚泥活用による循環型農業の推進～農福連携で取組む資源循環の普及啓発～		
採択年度	令和6年度（2年目）	採択申込金額 （3年間）	3,300,000円
事業概要			
<p>1 地域課題と事業目的</p> <p>(1) 課題 下水道汚泥の、活用、リサイクル方法（県内の約35%しかリサイクル処理されていない） 農業人口の減少と農業肥料等の高騰</p> <p>(2) 目的 汚泥を活用したコンポスト肥料を普及させるとともに、障がい者の新たな活躍の場として、農業を活用</p>			
<p>2 事業内容（課題解決の方法）</p> <p>○栽培実証を通じた周知と地域内循環 汚泥肥料の活用を広く知ってもらうため、近隣中学校の生徒と福祉施設利用者が連携しサツマイモ栽培を行った。収穫したサツマイモは学校祭や種苗交換会で販売され、地域の中で消費される流れをつくることができた。こうした取組を通じて、汚泥肥料を活用した資源の循環を身近に感じてもらう機会となり、理解の広がりにつながった。また、福祉事業所利用者の作業機会の拡大や就労意欲の向上、生徒の社会参加意識の向上にもつながった。</p> <p>○加工・商品化による周知の広がり 汚泥肥料で育てたサツマイモを活用し、焼き芋の試作や真空包装・冷凍加工品の試作を行った。これにより、6次産業化への発展と、地域の中で継続的に活用していくイメージづくりにつながった。</p> <p>○展示・イベントによる周知 下水道の仕組みや汚泥の肥料化についてまとめたタペストリーを制作し、あきたエコフェス等で掲示を行った。汚泥肥料がどのように作られ、どのように活用されているかを分かりやすく伝えることができ、理解促進につながった。制作したタペストリーやチラシは、今後もさまざまな場面で活用可能な普及啓発ツールとして、関係機関や地域において広く活用されることが期待される。</p> <p>○視察による理解の深化 鶴岡市下水道課浄化センターへの視察においては、県とともに視察を通じて、汚泥肥料の利活用に関する方向性の共有を図ることができた。また、地域の浄化センター視察については近隣の中学生とともに、学びを共有する機会を創出した。これらの取組を通じて、日頃実施している汚泥肥料を活用した栽培についても理解が深まり、その有効性や意義を改めて実感することができた。</p> <p>○2年目の事業における総合的な成果 これらの取組を通じて、汚泥肥料を活用した農産物が地域の中で生産・活用される流れを実際に形にすることができた。展示やイベントでの発信とあわせて、県民の方々へ身近な取組として伝えることができ、今後の継続的な活用や広がりにつながる土台を形成できた。</p>			

3 実施スケジュール

【1年目】

- ・コンポストについて他地域の事例視察・コンポストの更なる活用方法の情報収集・コンポスト肥料の需要調査
- ・学校関係者との意見交換、要望調査
- ・他の福祉事業所や、基幹支援センターと意見交換、要望調査
- ・農産物や加工品の開発に協力いただける企業の調査
- ・圃場の確保・農産物の選定

佐賀市下水浄化センター 現地視察



秋田県県南地区広域汚泥資源化事業



【2年目】

- ・体験型農園での農産物生産
- ・6次産業化への準備（アイスクリーム等の試作）
- ・「あきた循環型野菜」（例）の汚泥肥料のシンボル（ロゴ等）作成。
- ・循環型社会へ向けて、コンポストの周知をするためのSNS、チラシなどの広報制作
- ・小学校、中学校、支援学校、向け下水道から始まり、リサイクルされるまでのビデオ動画制作

汚泥肥料を使用しサツマイモ栽培、収穫



秋田県種苗交換会での湯沢南中学校の生徒によるサツマイモ販売、タペストリー展示による周知活動



【3年目以降】

- ・ 6次産業化の開始（アイスクリーム等の商品化）
- ・ 汚泥肥料による農産物のブランド化
- ・ コンポストを使用し、新たな需要に対する商品開発を企業との連携

4 この事業で見込まれる成果

- ・ 未利用資源の活用
- ・ 循環型社会の構築
- ・ ブランド化による新たな農産物への期待と価値。
- ・ 下水道の必要性和循環型社会についての見直しの機会の創出
- ・ 障がい者が活躍できる働く場の確保
- ・ 地元企業や他の福祉事業所、基幹支援センターとの連携の強化
- ・ 環境負荷の軽減や資源循環への県民の関心喚起

5 主な役割分担と協働

＜実施団体＞

障害者就労支援事業施設 NPO あきたアグリネット

＜行政(県)＞

未利用資源の活用に向けて、関係機関との調整・合意形成を図るとともに、情報発信を行い、地産地消の推進およびブランド化を推進

＜協働の取組＞

県の調整により、佐賀市下水浄化センター、2年目には鶴岡市下水道課浄化センターへの視察を行った。鶴岡市下水道課浄化センターの視察においては、県とともに視察を通じて知見を得ることが出来た。

汚泥肥料の広報活動として近隣の小中学校や支援学校、改良区経由で地域の保全会へ無償提

供を行い実際に活用いただいた。

福祉事業所の利用者と近隣中学校の生徒さん方とともに汚泥肥料を使用し、サツマイモの栽培から収穫までを行った。また、収穫したサツマイモは、学校祭や種苗交換会で販売し、6次産業化に向けた商品の試作を実施し次年度への展開につなげる。

周知活動として、第23回あきたエコフェスにて秋田県建設部下水道マネジメント推進課が出展する環境保全エリアにおいて制作した周知用タペストリーの展示に至る。

6 この事業の今後の課題と対応方法

(1) 課題

県民への周知を起点として、認知の向上を図り、子供から大人まで幅広い年齢層に向けて普及活動を繋げていくことが課題である。

(2) 対応方法

制作を予定している動画については今後の完成を見据え、県の協力を得ながら活用方法を検討し、効果的な周知活動に繋げていく。

あわせて、事業で作成するタペストリーやチラシについても、県民の目に触れやすい場所への掲示等を行い、認知向上に努める。

■担当課室のコメント（下水道マネジメント推進課）

下水道は住民の生活環境や地域の自然環境の保全に大きく貢献していますが、あまりに身近な存在だからこそ、その重要性が認識されていません。下水汚泥由来の肥料を中学生や福祉施設利用者が活用して、サツマイモを栽培することや6次産業化を目指す取組は、県民の下水道事業への理解を深めると共に地域の循環型社会形成に大きく寄与するものと評価しております。

特に若い方々が地域にある有用な資源に気づいてもらうことは重要と考えており、農産物の提供やイベント等への参画による拡がり期待されます。今後実施する下水汚泥肥料による農産物のブランド化は、全国的な展開が期待される取組であることから当課でも協力しながら汚泥肥料の普及と下水道事業の理解醸成を図って参ります。